

令和4年度 那珂川市区域におけるCO2排出量の報告

令和8年（2026年）3月

※各数値は四捨五入をしている関係で、合計が合わない場合があります。

## 1. 区域におけるCO2 排出量

### ① 排出量の推計について

那珂川市の区域におけるCO2 排出量は、国が公表している自治体排出量カルテの値を活用しています。自治体排出量カルテは公表されるまでに約2年のずれがあるため、現在算出されているのは2022年度までの値になります。自治体排出量カルテでの市町村の排出量は、県の排出量を人口や製造品出荷額、従業員数等の活動量に基づき按分した値になります。

那珂川市の排出量は、この自治体排出量カルテの値に対して、那珂川市再生可能エネルギー導入戦略で用いた算定方法で補正を加えてCO2 排出量を推計しています。

表1 那珂川市の区域におけるCO2 排出量

(千t-CO2)

部門・分野	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
合計	194	184	180	167	160	143	143	155	146	161
産業部門	26	27	37	24	24	21	24	38	36	36
製造業	19	20	31	18	17	16	18	32	30	30
建設業・鉱業	5	6	5	5	5	5	4	4	5	5
農林水産業	2	1	1	1	1	1	1	2	1	1
業務その他部門	47	45	43	35	33	30	31	31	29	33
家庭部門	66	58	52	53	49	34	33	41	36	49
運輸部門	55	54	48	48	47	50	43	40	39	37
自動車	51	50	44	44	44	47	40	37	36	34
旅客	32	31	29	29	28	30	26	23	22	23
貨物	19	19	16	15	15	17	14	14	14	11
鉄道	4	4	4	4	3	3	3	3	3	3
船舶	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
廃棄物分野（一般廃棄物）	0	0	0	8	7	8	6	6	6	6

※ 2022年度の家部門の排出量の補正では、令和4年度那珂川市省エネルギー家電製品買換え促進補助金事業によって得られた二酸化炭素排出削減量（0.53千t-CO2）を反映しています。

(千t-CO2)

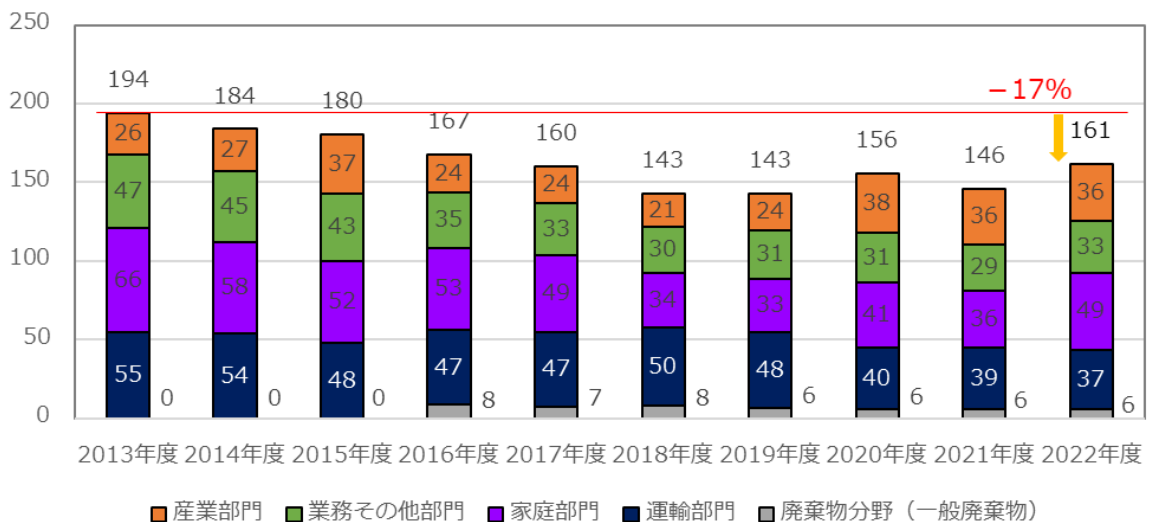
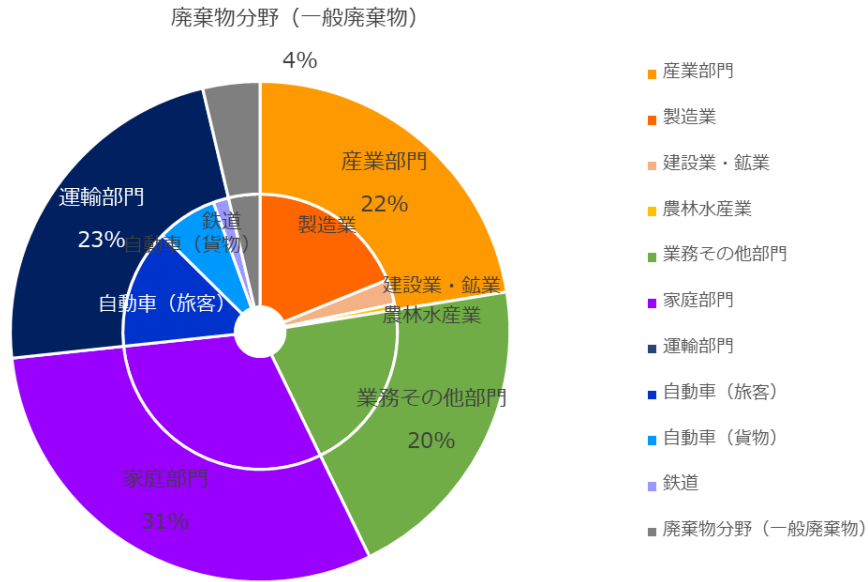


図1 那珂川市の区域におけるCO2 排出量の推移

② 部門別排出量の推移

部門別排出量の構成は、家庭部門の構成比が増加し、産業部門や運輸部門は構成比が減少しました。

図2 2022年度CO2排出量の部門別構成比



ア 産業部門（製造業、建設業・鉱業、農林水産業）

2015年度及び2020・2021・2022年度が多くなっているのは統計手法の差によるものです。統計手法の差を補正すると、全体としては減少傾向となっています。

2022年現在、産業部門のCO2排出量のうち、製造業が84%程度、建設業・鉱業が13%程度、農林水産業が3%程度となっています。

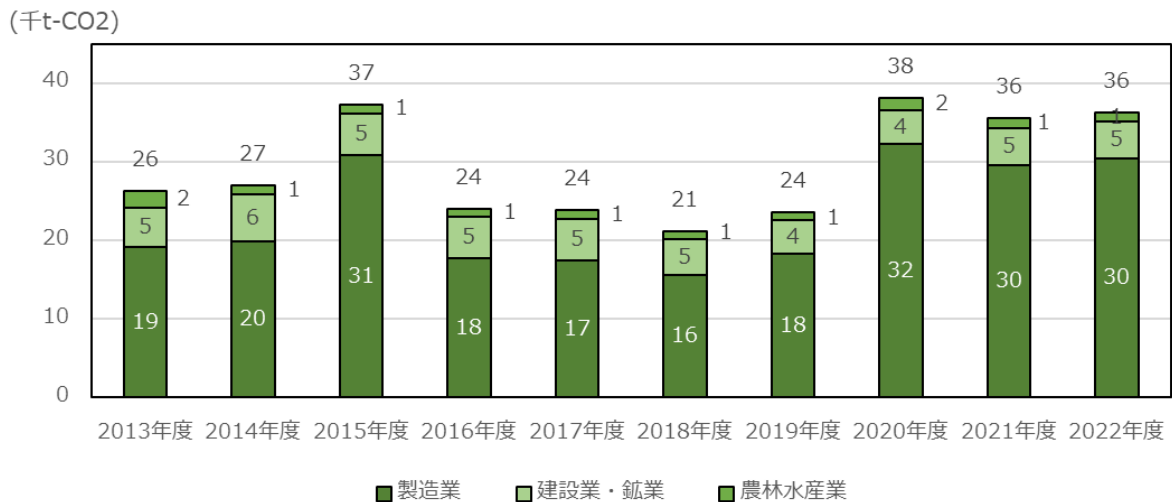


図3 産業部門におけるCO2排出量の推移

イ 業務その他部門（産業部門以外の事業者）

業務その他部門からの CO2 排出量は、2013 年度の 47 千 t-CO2 から減少傾向が続いています。2022 年度には 33 千 t-CO2 となり、2013 年度比で約 31%の削減となっています。2022 年度は、CO2 排出係数の上昇によって福岡県の業務部門での排出量が増加しており、福岡県の値の按分に基づいて計算される那珂川市の排出量も増加しています。

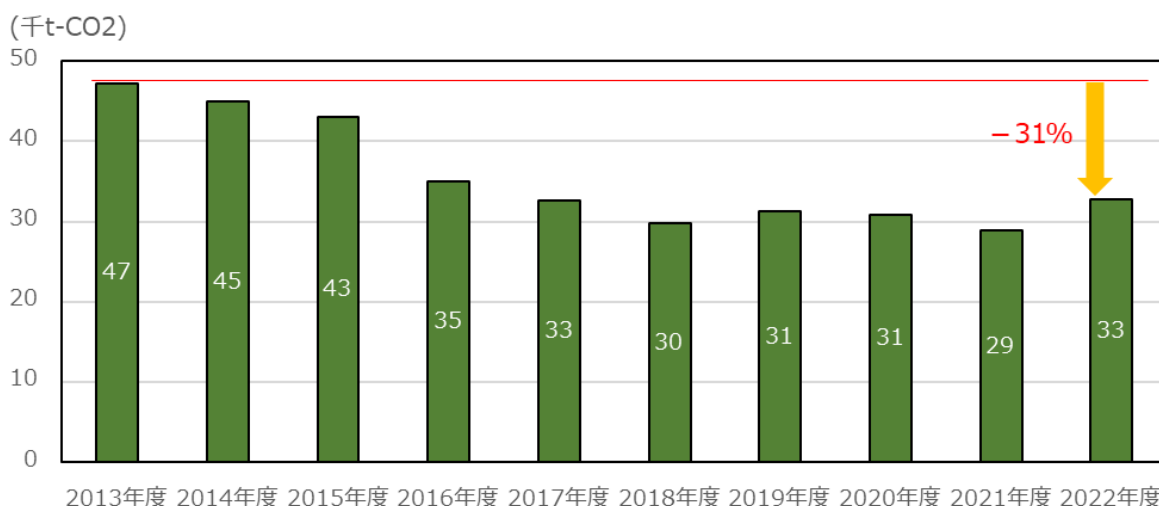


図4 業務その他部門における CO2 排出量の推移

業務その他部門の排出量算出の根拠となる活動量は従業員数です。従業員数は「経済センサス-活動調査」による値が用いられるため、毎年の値は算出されません。那珂川市の業務その他部門における従業員数は 2020 年の統計では増加に転じました。

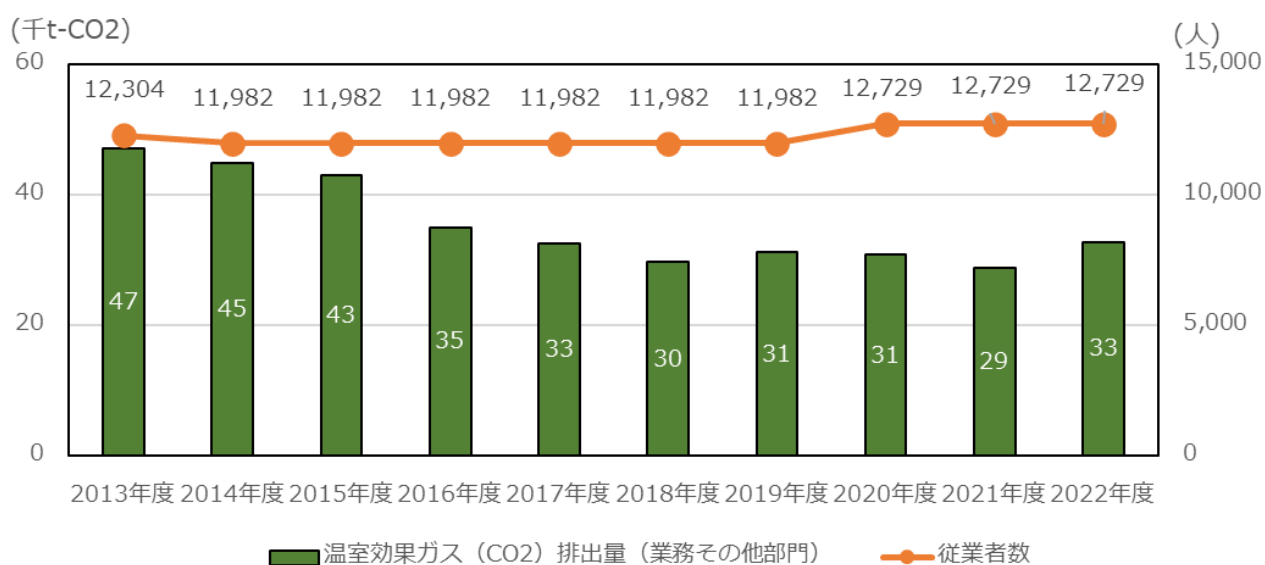


図5 事業所の従業員数の推移と業務その他部門における CO2 排出量の推移

## ウ 家庭部門

家庭部門のCO<sub>2</sub>排出量は2013年度の66千t-CO<sub>2</sub>から減少傾向でしたが、2022年度は49千t-CO<sub>2</sub>と2021年度比で約35%増加しましたが、2013年度比で約25%の削減となっています。2022年度は、CO<sub>2</sub>排出係数の上昇によって福岡県の実績値の家庭部門での排出量が増加しており、福岡県の値の按分に基づいて計算される那珂川市の排出量も増加しています。令和4年度的那珂川市省エネルギー家電製品買換え促進補助金事業によって得られた二酸化炭素排出量の削減は534t-CO<sub>2</sub>/年と推計され、令和4年度の実績値の家庭部門の排出量49千t-CO<sub>2</sub>と比べると、直接的な削減効果は1.09%でありました。

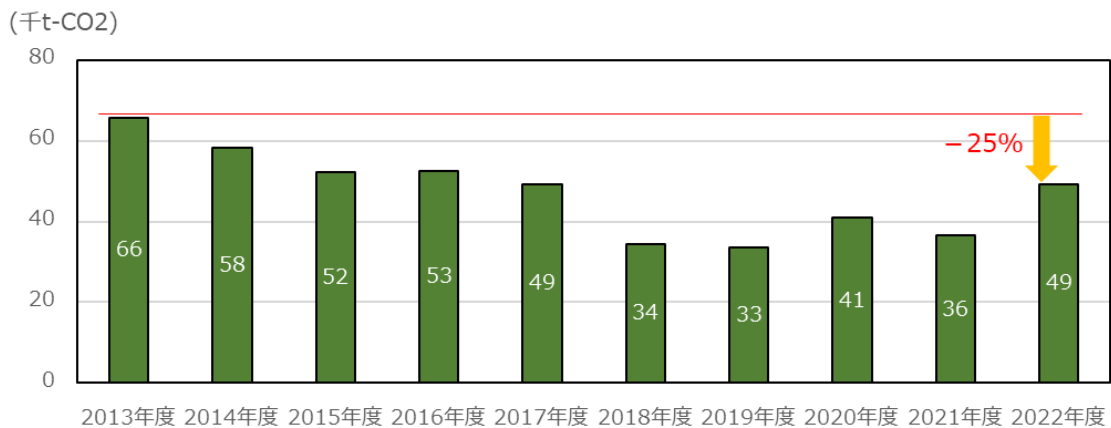


図6 家庭部門におけるCO<sub>2</sub>排出量の推移

家庭部門の排出量算出の根拠となる活動量は世帯数です。世帯数は住民基本台帳によって毎年公表されています。那珂川市の世帯数は2022年度まで緩やかに増加しています。

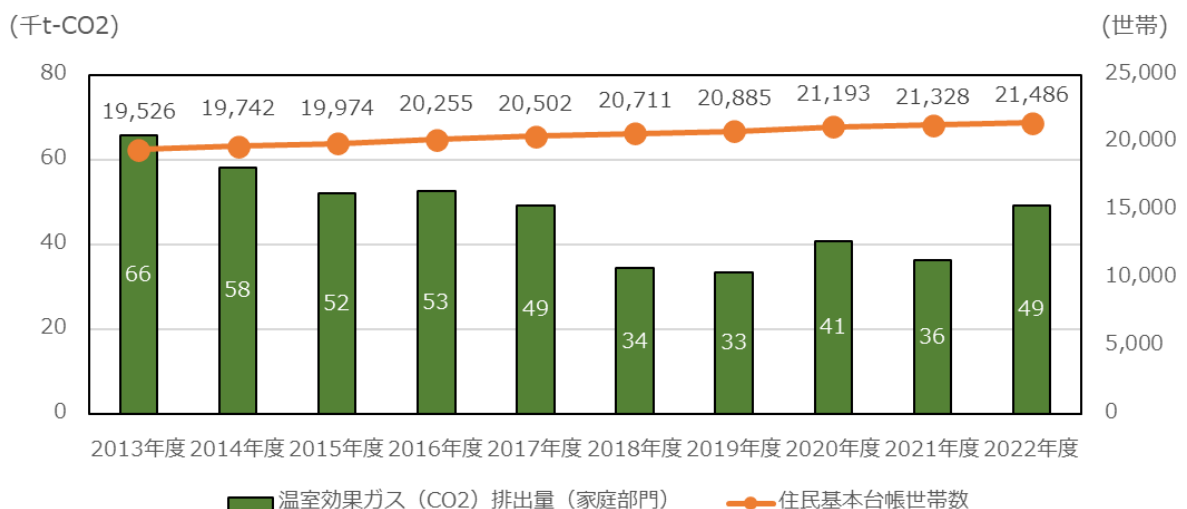


図7 世帯数の推移と家庭部門におけるCO<sub>2</sub>排出量の推移

## エ 運輸部門

運輸部門のCO2排出量は2018年度に増加していますが、全体の傾向としては減少しています。運輸部門の自動車からの排出量は、環境省が公表している車両の運行率に基づき補正しています。2019年度以降は新型コロナウイルスの影響等により運行率が著しく低下しており、自動車からの排出量も著しく減少しています。

(千t-CO2)

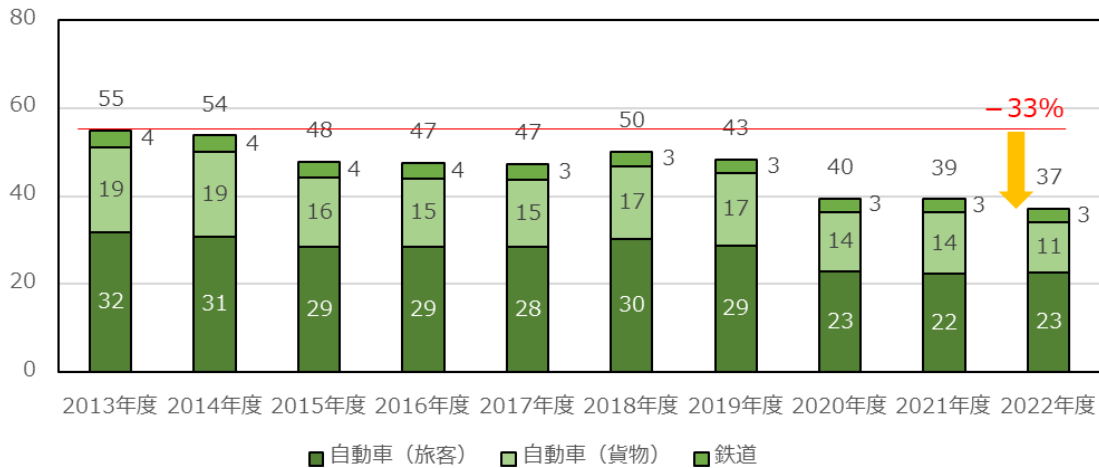


図8 運輸部門におけるCO2排出量の推移

運輸部門の排出量算出の根拠となる活動量は自動車保有台数です。那珂川市の自動車保有台数は2013年度以降緩やかに増加しています。

(千t-CO2)

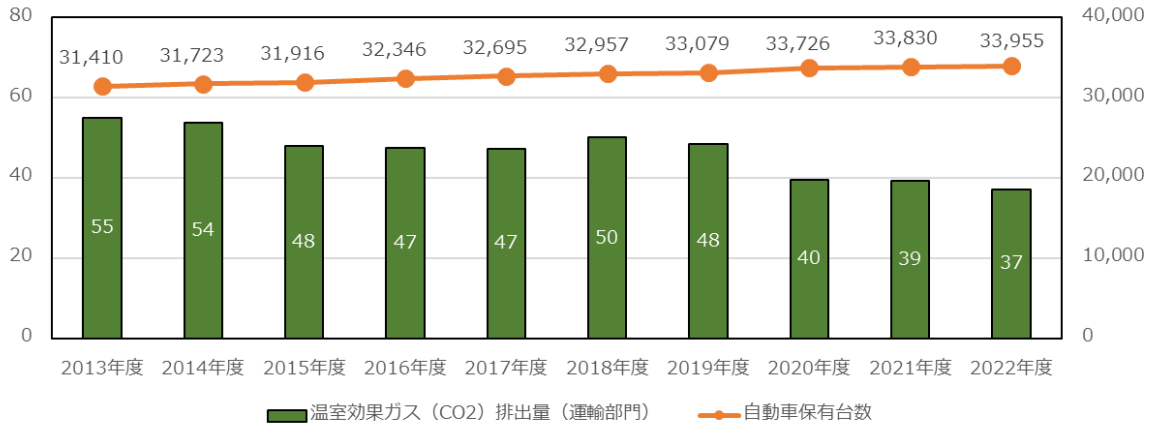


図9 保有車両数の推移と運輸部門におけるCO2排出量の推移

## オ 廃棄物部門

廃棄物部門のCO<sub>2</sub>排出量は、自治体排出量カルテに掲載され始めた2016年度以降、減少傾向でしたが、2022年度は2021年と比べて増加しました。

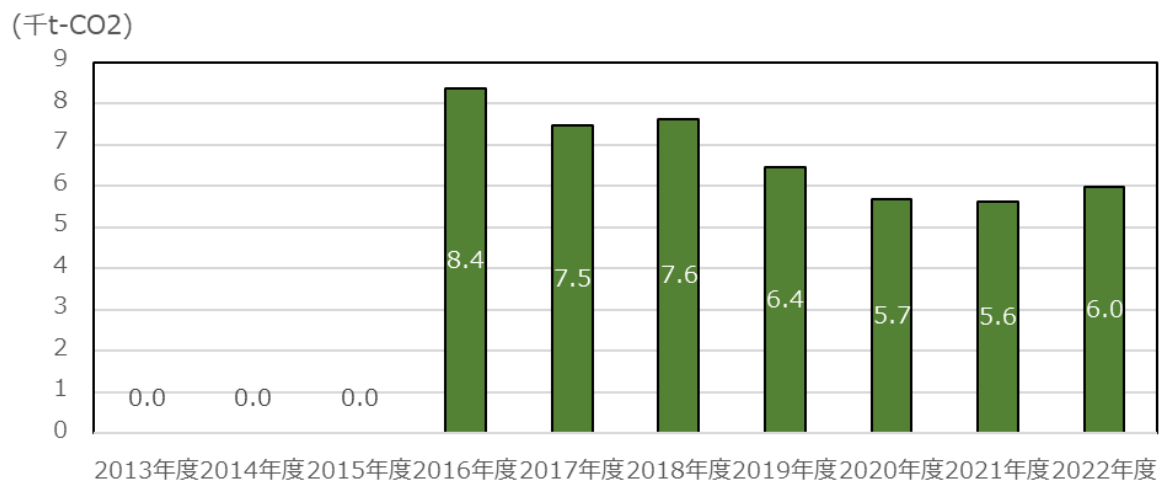


図 10 廃棄物部門におけるCO<sub>2</sub>排出量の推移